

第24号 | 2014年2月6日発行

## 2013（平成25）年度の卒業論文発表会が行われました！

准教授 高山静子



卒論発表会に集まった子ども支援の学生



独自の調査と実践に基づいた研究成果が発表された



先輩の発表に真剣に聞き入る3年生



発表終了後に晴れ晴れとした笑顔を見せる発表者たち

2014年2月3日（月）、13時30分から16時30分まで子ども支援学専攻の「卒業論文・ゼミ論文発表会」が行われました。子ども支援学専攻では1年次からの学びの集大成として卒論・ゼミ論に取り組みます。発表会では代表8名が卒論発表と質疑応答を行いました。

この日発表されたテーマは、「保育現場における音の環境」、「園庭における広場スペースと遊具スペースの関係性」、「朝霞市における地域子育て支援の現状と課題における一考察」、「児童相談所一時保護所における被虐待児に対する生活支援のあり方に関する一考察」、「発達障害を伴う非行少年の現状と支援策」、「ひとり親家庭の子どもに対する対応実態と課題」など。

研究の方法も、幼稚園でのフィールドワーク、市役所や保健所、子育て支援センターでのヒアリング、保護者へのアンケート調査など様々です。

教員からは、「卒業論文は研究によって様々な自分に出会い格闘して得た自己成長の証である」、「根拠に基づいて考える姿勢をこれからも持ち続けてほしい」、「ここで得た論理性や客観性を保育や仕事に活かしてほしい」等のコメントが寄せられました。

終了後、最優秀論文の審査があり、子ども支援学専攻の最優秀論文は、角藤ゼミの西岡知穂さんの「わらべうた——埼玉県加須市を中心として——」に決定しました。校友会からは副賞が贈られます。